

令和8年度大阪府立吹田東高等学校
第1回学校運営協議会

日 時：令和8年7月3日（金）

場 所：大阪府立吹田東高等学校 校長室

・委 員 吉川 正晃 吹田市立千里丘中学校 校長
春貴 勇力 吹田東高等学校 後援会会長
高橋 祐哉 吹田東高等学校 P T A会長
城下 英行 関西大学社会安全学部准教授
佐伯 勇 甲南女子大学教授
岸本 香生里 東山田青少年対策委員会委員
飯田 亮真 アレグロ法律事務所

事務局 田尻 誠 吹田東高等学校 校長
田中 太郎 吹田東高等学校 教頭
橋本 知幸 吹田東高等学校 事務長
村上 明弘 吹田東高等学校 首席
淵上 陸人 吹田東高等学校 首席

【開会のあいさつ】 大阪府立吹田東高等学校 校長 田尻 誠

【実施要項等の確認】 （資料①参照）

「大阪府立吹田東高等学校運営協議会実施要項」の説明・確認

【会長・副会長選出】

会長 吉川 正晃（千里丘中学校校長）
副会長 春貴 勇力（吹田東高等学校後援会会長）

【議 事】

◆報告事項

- （1）令和7年度学校経営計画及び学校評価について （資料②参照）
本校田尻校長より「令和7年度学校経営計画及び学校評価」の説明
昨年度第3回学校運営協議会での報告以降の確定数値について報告

- Q 委員 「人材育成への取組み」（3）働き方改革の推進の対話型の研修とは具体的にどのようなことを行ったのか。
- A 働き方改革については、今年度に教育庁の支援事業を申し込み、取組みを進めている。
昨年度は職員会議でT e a m s の活用を促す呼びかけを行った。

(2) 令和8年度学校経営計画について (資料③参照)

本校田尻校長より「令和8年度学校経営計画」の説明

「めざす学校像・中期的目標」は昨年度第3回学校運営協議会で報告し、承認
その後の評価指標の確定値について報告

(3) 進路状況について (資料④参照)

本校田中教頭より説明

- ・4年生大学進学者の実数は過去5年間210名以上(80%の生徒)をキープしている。
- ・46期生以降は、約80%の生徒が4年制大学へ進学している。
- ・50期生は、国公立大学へ3名進学し、私立大学では関関同立に73名、産近甲龍に191名の合格者を輩出できた。
- ・医療看護系進学者は40名で、例年同様卒業生の1割強を占めている。
- ・毎年数名は希望者がいる就職・公務員ですが50期生は2名であった。
- ・浪人、進路未定者は17名となり、4年生大学志向や難関大学へのチャレンジ精神がより強まっていると考えられる。

(補足説明) 昨年度、進学実績が向上し、分析を行った。

50期生の入試倍率は高くそれが要因かと思ったが、入学してからの実力テストの成績は例年とほぼ同じであった。

それが向上した1つの要因として、50期生はリーダーシップを取れる生徒が多く、大学受験においても生徒が主体的に学年全体で最後まで頑張っていく雰囲気を作れていたのではないかとと思われる。また、このような傾向は今後もつなげていきたいと思う。

Q委員 進学実績が向上した背景にはチャレンジする生徒も増えたのか。

A 高校入試で高い倍率の中、チャレンジして合格した経験が大学入試にも活かされたとも考えられる。

委員 今後もぜひ生徒にチャレンジすることの大切さをわかってほしい。

Q委員 浪人する生徒の数が増えているが、チャレンジした結果も影響しているのか。

A 目標を下げずに頑張る生徒が増えたと思われる。

本校は難関大学だけをめざすのではなく、それぞれの進路目標の実現をめざしている。

(4) 新入生アンケート結果について (資料⑤参照)

本校淵上首席より説明

- ・今年度は4月17日に53期生320名を対象に行った。
- ・吹田東高校が第一志望である割合は昨年度と同様に約80%となっている。
- ・本校の受験理由としては、今年度も「新校舎」が28.2%と増加しており、「校風・雰囲気」の項目も20.2%と増加している。一方で「成績」を挙げた生徒は19.5%で、昨年度より減少傾向にある。
「どのような学校と聞いていたか」の回答では「厳しい・まじめ」が減少し、「行事が盛ん」が増加している。
- ・得意、不得意科目については、53期生は昨年に比べて、英語、理科が得意な生徒が増加し、国語が苦手である生徒が増加している。

(5) 令和9年度教科書選定について (資料⑥参照)

本校田中教頭より説明

- ・「令和9年度使用府立学校教科用図書採択要領」に基づき、同じ期間、観点(内容・学習)で各教科において選定を行った。

(6) DXハイスクール事業の継続について

本校淵上首席より説明

- ・助成金も3年目になるが今年度で終了。
- ・今年度は総合探究での教材費、直島での対話型鑑賞の費用、教員研修等で使用する。

(7) すいひの力 自己評価アンケートについて (資料⑦参照)

本校田尻校長より説明

- ・本校生の伸ばすべき力（非認知能力や主体的に考え行動する力等）について「すいひ」の頭文字を取って作成した。
- ・授業の中で取り入れたり、学級経営や教育活動で展開している。
- ・教員と生徒が定期的に自己評価を行って、今後の教育活動の改善につなげていく。
- ・具体的な評価方法については検討中。

(8) その他

Q委員 今は社会的に就職の選択の幅が広がっている中で、目的意識を持って大学を選択することが重要だと思う。難関大学にチャレンジする生徒が多いのはなぜか。

A オープンスクール等で進学実績に関心がある中学生の保護者や生徒も多い。教員も生徒の学力を伸ばし、少しでも学力の高いところをめざす現状はある。将来のことを考えると、本来は目的意識をも持って選択するべきだと思う。また、将来を見据えて進路選択を行っている生徒も多い。

委員 クリーンキャンペーンで吹田東の生徒が地域の子供に優しく接してくれている。
通学マナーは以前よりも向上している。

委員 昨年度卒業した 50 期生ではルールメイキングの活動で学校行事を作る取組みを行い実施した。リーダーシップを取れる生徒がいたが、そのような学年の雰囲気が進路実績にも反映されたと思う。新入生アンケート結果において、学校の印象が少しずつ変化してきていると思う。生徒の取組みを教員も理解しながら見直され、変化していると思う。

Q委員 新入生アンケートの結果から得意科目が数学と回答している生徒がここ数年高くなっており、理科も今年は高くなっているが、学年で理系と文系の比率はどのくらいか。

A ここ数年変化は無く、理系が1クラスぐらい。

【諸連絡】

(1) 令和10年度公立高等学校入学者選抜から実施する学校特色枠に係る詳細の検討について

次回 11月下旬～12月上旬 (予定)